

第1 叙勲

1 意義

叙勲は、国家又は公共に対し功労のある者を顕彰するための制度であり、その種類は大勲位と大綬章から単光章までの9段階がある。

2 沿革

西洋では、11世紀十字軍時代に発生した宗教騎士団がその結社員の標章として黒衣の胸間に着用していた白布製の八稜の十字架がその起源であるとされている。一方、我が国では、慶応3年（1867年）パリで第5回万国博覧会が開催された際、これに参列した薩摩藩がフランス皇帝を始め政府の要人に贈与した「薩摩琉球国勲章」が最初の勲章であるといわれており、その後における勲章制定の経緯については次のとおりである。

明治 8年4月・ 勲等賞牌及び従軍牌（勲一等旭日大綬章以下勲八等白色桐葉章に至る旭日章）制定の件を公布

明治 9年11月・ 賞牌は勲章に、従軍牌は従軍記章と改称
・ 勲一等の上級として大勲位を制定（菊花大綬章及び同副章を制定）

明治21年・ 宝冠章を制定（5等級の宝冠章を制定）
・ 瑞宝章（勲一等から勲八等まで）を制定
・ 旭日大綬章として勲一等旭日桐花大綬章を制定
・ 大勲位菊花章頸飾（大勲位に叙せられた者のうち特別に賜うもの）を制定

明治23年2月・ 金鷄勲章を制定（武功拔群の者に授与されるもので功一級から功七級に至る7等級があったが、日本国憲法施行と同時に廃止された。）

昭和12年2月・ 文化勲章（文化の発達に関し勲績卓絶な者に授与されるもの）を制定

昭和21年5月・ 「官吏任用叙級令施行に伴う官吏に対する叙位及び叙勲並びに貴族院及び衆議院の議長、副議長、議員又は市町村長及び市町村助役に対する叙勲の取扱に関する件」（閣議決定）により、官吏等に対する叙位・叙勲は、新憲法が制定され栄典制度の確立をみるまで外国人に対する叙勲及び文化勲章並びに褒章を除いて生存者に対する叙勲は一時停止

昭和28年9月・ 「生存者に対する叙勲の取扱に関する件」（閣議決定）により、生存者であって緊急に叙勲することを要するものについて、一部再開

昭和38年7月・ 「生存者叙勲の開始について」（閣議決定）により、生存者叙勲の全面復活

昭和39年4月・ 「叙勲基準」（閣議決定）により、生存者叙勲第1回発令、以来毎年、春は4月29日に、秋は11月3日にそれぞれ発令

昭和48年5月・ 「高齢者に対する叙勲および賜杯について」（総理決裁）により

高齢者叙勲を開始

- 昭和53年6月・ 「勲章及び文化勲章各受章者の選考手続きについて」(閣議了解)
を制定し手続等を整備
- 平成14年8月・ 「栄典制度の改革について」(閣議決定)により、栄典制度改革
についての政府方針を決定
- 平成15年5月・ 「勲章の授与基準」(閣議決定)
- ・ 19段階ある勲章を9段階に改め、数字による等級表示を廃止す
るとともに、旭日章と瑞宝章を同格・異種の勲章として分類
 - ・ 危険業務従事者叙勲の新設
- 平成15年11月・ 新栄典制度開始

3 勲章の種類

種 類		授 与 対 象	
<div>だいくん い きつかしょう</div> 大勲位菊花章 <div>けいしき</div> 大勲位菊花章頸飾 <div>だいじゅしょう</div> 大勲位菊花大綬章		旭日大綬章又は瑞宝大綬章を授与されるべき 功労より優れた功労の ある者	
<div>とう か だいじゅしょう</div> 桐花大綬章			
<div>きく じつ しょう</div> 旭 日 章	<div>ずい ほう しょう</div> 瑞 宝 章	国家又は公共に対し功 労のある者	<div>ほう かん しょう</div> 宝 冠 章
功績の内容に着 目し、顕著な功 績を挙げた者	公務等に長年に わたり従事し、 成績を挙げた者		外国人に対する儀礼 叙勲等特別な場合に 限り運用
<div>だいじゅしょう</div> 旭日大綬章 <div>じゅうこうしょう</div> 旭日重光章 <div>ちゅうじゅしょう</div> 旭日中綬章 <div>しょうじゅしょう</div> 旭日小綬章 <div>そうこうしょう</div> 旭日双光章 <div>たんこうしょう</div> 旭日単光章	瑞宝大綬章 瑞宝重光章 瑞宝中綬章 瑞宝小綬章 瑞宝双光章 瑞宝単光章		宝冠大綬章 <div>ぼたんしょう</div> 宝冠牡丹章 <div>しろしょうしょう</div> 宝冠白蝶章 <div>とうかしょう</div> 宝冠藤花章 <div>きょうようしょう</div> 宝冠杏葉章 <div>はこうしょう</div> 宝冠波光章
<div>ぶん か くん しょう</div> 文 化 勲 章		文化の発達に関し特に 顕著な功績のある者	

※ 賜杯：功労を表彰する方法として勲章に叙するよりも賜杯（銀・木）によることがふさわしい場合に授与される。

4 春秋叙勲

(1) 概要

昭和38年7月12日閣議決定「生存者叙勲の開始について」に基づく生存者に対する叙勲として、同39年4月29日に第1回が発令され、以来、春は4月29日に、秋は11月3日に発令されている。

国家又は公共に対し功労のある者を対象としている（前記閣議決定及び「春秋叙勲候補者推薦要綱」平成15年5月16日内閣総理大臣決定）。

なお、春秋叙勲は日本国憲法の下における栄典であるという性格に鑑み、その功労となる活動が日本国憲法施行の前で終わっている者については春秋叙勲の対象としないこととされ、また、日本国憲法下における功労となる活動が10年未満の者については運用上叙勲の対象としないこととされている（よって、昭和32年5月2日以前の退職者は対象とされない。）。

(2) 推薦年齢

原則、70歳以上の者（いわゆる「Ⅰ類」）とされている。

危険な職域や人目につきにくい分野等で永年業務に従事し、国家又は公共に対し功労のあった以下のような者（いわゆる「Ⅱ類」）については、特例として、55歳以上を対象とすることができるよう緩和されている。

ア 精神的又は肉体的に著しく労苦の多い環境において業務に精励した者（[REDACTED]）。

イ 人目につかない分野にあって多年にわたり業務に精励した者（[REDACTED]）。

(3) 推薦基準

【Ⅰ類】

現在、法務省におけるⅠ類の叙勲対象者は、以下の要件を満たす法務省官歴者及び民間功労者の司法書士、土地家屋調査士、保護司、篤志面接委員、教誨師、人権擁護委員である。

なお、以下の要件は春秋叙勲候補者としての基礎的な基準であり、[REDACTED]
[REDACTED]候補者数が年々増加しているため、[REDACTED]
[REDACTED]更に候補者を厳選して推薦せざるを得ない状況にある。

ア 官歴者（[REDACTED]）

(ア)

(イ)

(ウ)

イ 民間功労者

(ア) [redacted] が擬叙される者

民間功労者の擬叙基準については、[redacted]
[redacted] それぞれ個別に定めている（別表 3 「民間功労者に対する勲章擬叙基準」参照）。

【Ⅱ類】

現在、法務省におけるⅡ類の叙勲対象者は、法務省官歴者のうち、[redacted]
[redacted] であり、[redacted] に瑞
宝単光章が擬叙される。

なお、[redacted] I 類と同様にあくまで基礎的な基準であり、[redacted]
[redacted] 更に候補者を厳選して推薦することとなる。

※

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

5 外国人叙勲

(1) 儀礼叙勲

国賓等として来日した外国人や離任する駐日外交官等に対して発令される儀礼的色彩の強い叙勲

(2) 功績叙勲

我が国との友好の増進等について顕著な功績を挙げた外国人（日系外国人を含む。）に対して発令される叙勲として、昭和56年秋から春秋叙勲と時期を併せて定期的実施されている（「春秋外国人叙勲候補者推薦要綱」平成15年5月16日内閣総理大臣決定）。

候補者の推薦に当たっては、外務省が各省からの推薦を取りまとめ、外務大臣が内閣総理大臣に一括して推薦している。

なお、功績叙勲の推薦年齢及び対象範囲は以下のとおりである。

ア 推薦年齢

おおむね50歳以上

イ 対象範囲

(ア) 学術・教育関係

日本人学者・研究者の指導育成，日本人子弟の教育，日本の学術・文化の研究及び海外紹介，海外の学術・文化の対日紹介を通じ我が国の学界・教育界の進歩発展のため功績顕著な者

(イ) 医療・社会福祉等関係

保健衛生の向上，児童福祉事業の援護，養護事業の援護，海外の在留邦人・日本人に対する社会福祉事業の援護等で我が国の医療，社会福祉事業に貢献し，功績顕著な者

(ウ) 実業界関係

輸出入の振興，金融事業等を通じた産業経済の振興，製造業等各分野における生産技術の向上，鉱物資源の開発等に尽力し，我が国の産業経済の発展に功績顕著な者

(エ) 文化・スポーツ関係

日本文化の普及及び紹介，文化・スポーツの交流，友好親善団体の活動等を通じて彼我両国の友好親善の増進等に功績顕著な者

(オ) その他

以上の分野以外の面で彼我両国の友好親善関係の増進等に功績顕著な者

(1) 概要

(2) 推薦年齡

(3) 推薦基準 ()

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

7 再叙勲

昭和39年以降の春秋叙勲により勲章等を既に受章している者については、その後抜群の功績を挙げ、かつ、先に勲章等を受章した後の経過年数が原則として7年以上ある者に限り、再度、勲章の授与を検討することができるものとされている。

再叙勲の対象者は、現在、原則として抜群の功績のあった者であって、かつ、中綬章以上に擬叙される者としている。ただし、小綬章以下に擬叙される者であっても、先の叙勲後、経過年数が7年以上あり、かつ、年齢80歳以上の者で前回の勲章の授与後、上級の職につき、顕著な功績を挙げた者などについては例外的に検討の対象にすることができる。とされている。

8 高齢者叙勲

(1) 概要

春秋叙勲によっていまだ叙勲されていない功労者のうち、満 88 歳に達した者について、春秋叙勲とは別に叙勲することとしている。その趣旨は、春秋叙勲の対象となる功労を有しながら叙勲枠等の事情からいまだ叙勲されていない功労者のうち、年齢が満 88 歳に達した者に対して叙勲される制度であり、また、88 歳はいわゆる「米寿」であることから、それを祝福するという意味も込めて行われている（「高齢者に対する叙勲及び賜杯について」昭和 48 年 5 月 10 日内閣総理大臣決裁）。

[Redacted text block]

高齢者叙勲は、原則として毎月末の閣議に付し、翌月 1 日付けをもって発令することとし、発令日（1 日）までに満 88 歳となる者を対象としている。

[Redacted text block]

なお、上申手続の詳細については後掲の「14(2) 高齢者叙勲の上申手続について」を参照。

(2) 推薦基準（[Redacted]）

[Redacted]

【春秋叙勲対象者】

ア 官歴者（[Redacted]）

- (ア) [Redacted]
- (イ) [Redacted]
- (ウ) [Redacted]

イ 民間功労者

(ア) [Redacted]

擬叙基準については、[Redacted] それぞれ個別に定めている（別表 3 「民間功労者に対する勲章擬叙基準」参照）。

なお、他功績を有する者に関する事項については、春秋叙勲に準ずる。

【危険業務従事者叙勲対象者】

[Redacted] 刑務官、入国警備官のうち、[Redacted]
[Redacted]

9 死亡叙勲

(1) 概要

国家又は公共に対し功労のあった者が死亡した場合に春秋叙勲とは別に随時に発令され、春秋叙勲のような特に年齢の制限はない（発令は死亡日付け）。

死亡叙勲の手続については、特に、死亡日から30日以内に閣議決定、上奏、裁可の手続を完了させるよう制限が課せられているので、関係者と連絡を密にし、速やかに書類を作成して提出する必要がある。

（上申手続の詳細については後掲の「14(3) 叙位・死亡叙勲上申手続について」を参照）

(2) 推薦基準

【Ⅰ類】

ア 官歴者（ ）

(ア)

(イ)

(ウ)

イ 民間功労者

(ア)

擬叙基準については、それぞれ個別に定めている（別表3「民間功労者に対する勲章擬叙基準」参照）。

なお、他功績を有する者に関する事項については、春秋叙勲に準ずる。

(イ) 春秋叙勲に上申中であった者

【Ⅱ類及び危険業務従事者】

10 緊急叙勲

(1) 概要

緊急叙勲は、風水害、震火災その他非常災害に際し、身命の危険を冒して、被害の最大防止救援等に努め、顕著な功績を挙げた者、その他特に顕著な功績を挙げて、緊急に勲章を授与することが必要な者等を対象としている（「勲章の授与基準」平成15年5月20日閣議決定）。

(2) 対象範囲

- ア 風水害、震火災その他非常災害に際し、身命の危険を冒して、被害の拡大防止、救援又は復旧に努め、顕著な功績を挙げた者
- イ 身命の危難を冒して、現行犯人の逮捕等犯罪の予防又は鎮圧に顕著な功績を挙げた者
- ウ 生命の危険を伴う公共の業務に従事し、その職に殉じた者
- エ その他特に顕著な功績を挙げて、緊急に勲章を授与すること必要とする者

[Redacted text block]

11 賜杯

勲章に代えて杯が授与されるのは、次の場合である。

(1) 勲章を授与するよりも杯を授与することがふさわしいと認められる場合（ノーベル賞受賞者、高位の僧侶等）。

(2) [REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

12 褒章受章者（紅綬，紺綬褒章を除く。）の叙勲について

叙勲は功労を総合的に評価するのに対し、褒章は褒章条例に定める特定の分野の功労があれば足りるため、褒章受章者が叙勲年齢に達した場合において、更に叙勲候補者となることが一般的に生じ得る。しかしながら、短期間に同一人に褒章と勲章が重ねて授与されることは、勲章も褒章も同じ国家の栄典であること及び叙勲候補者が多数存在していることから好ましくないため、褒章受章後5年以上経過しなければ勲章の対象としないこととされている（ただし、死亡叙勲の場合は5年を要しない。）。

本来、叙勲基準を満たす者（[REDACTED]）を褒章候補者とするのは、褒章制度の趣旨から逸脱するため、叙勲候補者とする。

なお、[REDACTED]
[REDACTED]，褒章上申時の候補者選考において慎重な検討を必要とする。

また、[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

13 年数の計算

(1) 算入・除算経歴

【公務員】

[REDACTED]

[Redacted text block]

【民間功労者】

当省における民間功労者は、司法書士、土地家屋調査士、教誨師、篤志面接委員、保護司及び人権擁護委員であるが、

[Redacted text block]

(2) 計算方法

叙勲・褒章において期間を計算する場合は、半月を単位として計算する。

始期が1日～15日の場合は当月0、16日～末日は、当月半となる。

終期が1日～15日の場合は当月半、16日～末日は、翌月0となる。

〔例1〕半月の考え方

始期の場合

自 平15. 1. 1～15 → 平15. 1. 0

自 平15. 1. 16～31 → 平15. 1. 半

終期の場合

至 平15. 1. 1～15 → 平15. 1. 半

至 平15. 1. 16～31 → 平15. 2. 0

〔例2〕単一の期間の計算

- ① 自 平15. 1. 4 (平15. 1. 0) } 在職期間は2年0月0 (2. 0. 0)
至 平16. 12. 18 (平17. 1. 0)
- ② 自 平15. 1. 15 (平15. 1. 0) } 在職期間は2年0月半 (2. 0. 半)
至 平17. 1. 1 (平17. 1. 半)

※ ①②共に実際の期間は、2年に満たないものの、叙勲・褒章における期間計算によると太字の期間となる。

特に②のように終期月が1日であっても半月として計算するものであり、実務でも1日付け退職等の事案は多数あるので留意すること。

[例3] (連続した期間の計算)

- ① 自 平15. 4. 1 (平15. 4. 0) } ア (0. 2. 0)
至 平15. 5. 31 (平15. 6. 0) } (0. 4. 0)
自 平15. 6. 1 (平15. 6. 0) } イ (0. 2. 0)
至 平15. 7. 31 (平15. 8. 0) }

※ 連続する職の終期と始期が、半月計算の区切りとなる末日と1日、15日と16日となる場合は、それぞれ単に半月ごとの計算となる。

上記以外の場合の期間の計算方法は以下のとおりとなる。

- ② 自 平15. 4. 1 (平15. 4. 0) } ア (0. 2. 0)
至 平15. 5. 25 (平15. 6. 0)
自 平15. 5. 26 (平15. 5. 半) } イ (0. 2. 半)
至 平15. 7. 31 (平15. 8. 0)

※ 単純にアとイを合算すると(0. 4. 半)となるが、連続した期間の最初(平15. 4. 0)と最後(平15. 8. 0)により計算すると(0. 4. 0)となる。これはアの終期とイの始期の重複する部分をそれぞれ期間に通算しているためである。

このような場合には、次のとおり、原則としてアの終期を(平15. 5. 半)と調整し、アの期間は(0. 1. 半)となり、イと合算して(0. 4. 0)となる。

- 自 平15. 4. 1 (平15. 4. 0) } ア (0. 1. 半)
至 平15. 5. 25 (平15. 5. 半) } (0. 4. 0)
自 平15. 5. 26 (平15. 5. 半) } イ (0. 2. 半)
至 平15. 7. 31 (平15. 8. 0)
- ③ 自 平15. 4. 1 (平15. 4. 0) } ア (0. 1. 半)
至 平15. 5. 5 (平15. 5. 半)
自 平15. 5. 6 (平15. 5. 0) } イ (0. 3. 0)
至 平15. 7. 31 (平15. 8. 0)

※ 前記②と同様の考え方により調整して次のとおりとなる。


- 自 平15. 4. 1 (平15. 4. 0) } ア (0. 1. 0)
至 平15. 5. 5 (平15. 5. 0) } (0. 4. 0)
自 平15. 5. 6 (平15. 5. 0) } イ (0. 3. 0)
至 平15. 7. 31 (平15. 8. 0)


- ④ 自 平15. 4. 1 (平15. 4. 0) } ア (0. 0. 半)
 至 平15. 4. 7 (平15. 4. 半)
 自 平15. 4. 8 (平15. 4. 0) } イ (0. 4. 0)
 至 平15. 7. 31 (平15. 8. 0)


※ 半月内に2回の異動があった場合は、①②の考え方によるとアの終期を(平15. 4. 0)としてアの期間は(0. 0. 0)となるため、このような場合に限り、イの始期を(平15. 4. 半)と調整して次のとおりとなる。

- 自 平15. 4. 1 (平15. 4. 0) } ア (0. 0. 半)
 至 平15. 4. 7 (平15. 4. 半) } (0. 4. 0)
 自 平15. 4. 8 (平15. 4. 半) } イ (0. 3. 半)
 至 平15. 7. 31 (平15. 8. 0)

[例4]

- 自 平15. 4. 1 (平15. 4. 0) } ア (0. 1. 半)
 至 平15. 5. 7 (平15. 5. 半)
 自 平15. 5. 8 (平15. 5. 0) } 
 至 平15. 7. 22 (平15. 8. 0)
 自 平15. 7. 23 (平15. 7. 半) } イ (0. 1. 半)
 至 平15. 8. 31 (平15. 9. 0)

※ 連続した期間の中にによる除算を含む場合は、有利となるように計算することとし、終期、始期については調整する必要はない。

- 自 平15. 4. 1 (平15. 4. 0) } ア (0. 1. 半)
 至 平15. 5. 7 (平15. 5. 半)
 自 平15. 5. 8 (平15. 5. 半) } 
 至 平15. 7. 22 (平15. 7. 半)
 自 平15. 7. 23 (平15. 7. 半) } イ (0. 1. 半)
 至 平15. 8. 31 (平15. 9. 0)

14 上申手続

(1) 春秋叙勲及び危険業務従事者叙勲の必要書類及び人事課提出部数

文 書 名	提出部数
審 査 票	2 部
功 績 調 書	2 部
履 歴 書	2 部
刑罰等調書	2 部
戸 籍 抄 本	2 部

(注) 上記以外の必要書類及び必要書類作成に当たっての留意事項については、その都度法務省大臣官房人事課や管区機関等から指示される。

審査票、履歴書、功績調書、刑罰等調書は別紙様式 2～5 のとおり。

(2) 高齢者叙勲の上申手続について

ア 対象者について

春秋叙勲のⅠ類の基準又は危険業務従事者叙勲の基準に該当する功労を有しながら、諸般の事情によりいまだ叙勲されていない功労者のうち、発令日（1日）の前月に満88歳となる者（例えば、4月1日付け発令の高齢者叙勲に該当することとなる者は、前月の3月2日から4月1日までの間に88歳の誕生日を迎える者である。）。

イ 上申書の提出期限について

上記に該当する対象者の法務大臣への上申書は、満88歳に達する日（年齢計算に関する法律参照）の属する月の前月の1日までに法務省大臣官房人事課に到着すること。

例えば、3月15日に88歳の誕生日を迎える対象者の場合は、2月1日までに上申書類が同課に到着していることが必要である（下図参照）。

2/1	2/下旬	3/14 15	3/末	4/1
上申期間				
提	賞内	満 誕	閣	発
出	勲議	88 生	議	令
期	局	歳 日	決	日
限	へ		定	

(注) 各月の1日生まれの者については、その前々月の1日が提出期限となるので、特に留意すること（2日から末日までに生まれた者は、その前月の1日が提出期限となる。）。

このように提出期限に制限が課せられているのは、内閣府において高齢者叙勲の発令を毎月１日付けで行うため、その前月の最終閣議に付議し、上奏、裁可の手続を完了させる必要があるからである。

なお、高齢者叙勲の上申に当たっては、満８８歳に達する誕生日が重要なポイントとなるので、対象者の年齢把握について適切な方法を策定し、特に満８７歳の者については、XXXXXXXXXX，くれぐれも上申期限を徒過することのないよう十分留意すること。

誕生日別の上申書提出期限は下表のとおりである。

誕生日	提出期限
１／２ ～ ２／１	前年１２月１日
２／２ ～ ３／１	前年１２月の最終勤務日
３／２ ～ ４／１	２月１日
４／２ ～ ５／１	３月１日
５／２ ～ ６／１	４月１日
６／２ ～ ７／１	５月１日
７／２ ～ ８／１	６月１日
８／２ ～ ９／１	７月１日
９／２ ～ １０／１	８月１日
１０／２ ～ １１／１	９月１日
１１／２ ～ １２／１	１０月１日
１２／２ ～ １／１	１１月１日

※ 提出期限が休日、祝日等の場合、直前の最終勤務日が提出期限となる。

ウ 提出書類及び提出部数

文 書 名	提出部数
上 申 書	１部
審 査 票	２部
功 績 調 書	２部
履 歴 書	２部
刑罰等調書	２部
戸 籍 抄 本	２部

※ 民間功労者（司法書士，土地家屋調査士，教誨師，篤志面接委員，保護司及び人権擁護委員をいう。以下同じ。）については，上記のほかに，「団体の規模及び事業概況等調」並びに「活動実績表」（司法書士及び土地家屋調査士を除く。用紙はA 4とする。）がそれぞれ2部必要となる。

各書類の様式は春秋叙勲に準ずる。

エ 書類作成上の留意事項

（ア） 上申書

- a 用紙はA 4縦（裏白）を用い，横書き左とじとすること。
- b 本省所管各庁の長（本省局部課長）から法務大臣宛てとすること。

（イ） 功績調書

- a 用紙はA 4縦（別紙様式2）を用い，横書き左とじとすること。複数枚数になる場合，両面コピーとすること。
- b 功績は具体的に記載すること。
- c 功績が複数にわたっているときは，分野ごとに分類し，項目別に記載すること（ここでの功績の分野とは，上申する功労とは異なる業界等を指す）。

（ウ） 履歴書

- a 用紙はA 4縦（別紙様式3）を用い，横書き左とじとすること。複数枚数になる場合，両面コピーとすること。
- b 氏名の字画は戸籍どおり正確に記載し，ふりがなを付すこと。なお，婚姻等により氏名が変わっているものについては，旧氏名を現氏名の下に括弧書きで記載し，その変更年月日の記載がある戸籍抄本を添付すること。

※ 戸籍抄本の婚姻時の「従前戸籍」や「名の変更」の箇所から旧氏名を確認できない場合は，改製原戸籍が必要となる。父母の姓が異なる場合や従前戸籍に両親以外の名前がある場合も，養子縁組した後に離縁などで旧氏名がある可能性が残るので，必ず改製原戸籍を取り寄せること（写しの提出可）。

- c 本籍（変更されていることが多いので，必ず戸籍抄本で確認すること），現住所，最終学歴（中退を含む。），生年月日は，必ず記載すること。
- d 職歴について

（a） 官歴者については，人事記録に記載されているとおり，省略せずに記載すること。

また，軍歴がある者については，軍歴（階級等）を必ず記載すること。

（b） 民間功労者については，従事した始期及び終期の年月日を正確に記載し，また， がある者については を略さずに記載するとともに，その に始期及び終期の年月日を併記すること。

（c） 当省関係以外の公的な職歴（ ）がある者については，その始期及び終期の年月日（ ）を正確に記入すること。

（d） 賞罰について

本人がかつて受けたことのある位階，勲章，褒章，大臣表彰等の受章歴を記載すること。特に，前叙の有無は，その後の勲章の決定に影響を与え

るので、記録等により調査した上、必ずその有無を記載すること。

なお、

(エ) 刑罰等調書

用紙は、原則としてA4（別紙様式4）によることとされているところ、同内容の記載であれば、市区町村長の発行する適宜の様式で差し支えないが、「道路交通法違反及び自動車の保管場所の確保等に関する法律違反による罰金刑を含む※」の記載や「破産宣告又は破産手続開始決定の有無」の記載の漏れや内容に注意すること。

なお、市区町村長から発行された刑罰等調書がB5の場合は、証明印が確認できるようにしてA4用紙（白紙）に貼付すること。

また、氏名が戸籍抄本の氏名と一致しているか確認すること。「松」や「斎」などにはよくフォントの違いがあり、その場合には内閣府から①同一人物かどうか、②戸籍と刑罰のどちらの字が正しいかの2点を聞かれるので、その旨を記載した電話聴取書を作成し、添付すること。

(オ) 戸籍抄本

年齢等を明らかにする唯一の書類であるので、必ず提出期限内に送付すること。

オ その他

(ア) 栄典を授与することが不適当とされる場合

後掲の「第4 栄典を授与することが不適当な者」を参照。

(イ) 高齢者叙勲の上申中であった者が、受章前に死亡した場合は、その旨法務省大臣官房人事課栄典係に連絡するとともに、死亡者叙勲の手続を開始する。

(ウ) 栄典協議

法務省以外の機関が所掌する他の公的役職等が擬叙基準に達しているとみられる者について上申を行う場合には、事前に当該機関と上申庁及び擬叙勲章・位階について栄典関係協議をし、栄典関係協議書（別紙様式1）を添付して上申すること。

※ 協議のポイント

- ・経歴を確認する。
- ・叙勲の擬叙が立つか確認する（擬叙が立つ場合はその勲等も併せて確認する。）。
- ・法務省からの上申で差し支えないか、また、その理由を確認する。

(エ) 勲章等の伝達について

当該叙勲で下賜された勲章等は、原則として上申庁において伝達すること。

なお、受章者の居住地の関係等で上申庁と伝達庁が異なる場合は上申庁において伝達庁と協議の上、上申書にその旨を付記すること。

(3) 叙位・死亡叙勲上申手続について

ア 上申書の提出期限について

叙位・死亡叙勲の手続は、死亡日から３０日以内に閣議決定、上奏、裁可の手続を完了するようその手続期間に制限が課せられているため、法務大臣への上申（上申書、功績調書及び履歴書は正本）は死亡日からおおむね１５日以内に法務省大臣官房人事課に到着すること。

なお、祝日や閣議日とのかみ合わせによっては、死亡日から１０日前後での提出を求めることもあるので、できる限り早く手続を進めることが望ましい。

死亡日から３０日以内の閣議に掛けるためには、当該閣議日の遅くとも１週間前には関係書類を内閣府に提出する必要がある。

なお、遺族が退職者の死亡について最終所属庁への届出を失念し、同庁においてもその事実を把握できなかったため、３０日以内の閣議にかけることができない場合は、唯一の叙位・叙勲の機会を失うこととなるので、退職者の身上変動の把握方法を検討し、くれぐれも上申期限を徒過することのないよう配慮すること。

※ ３０日以内であり、１月ではないので留意すること。

イ 添付書類及び提出部数

文 書 名	提出部数
上 申 書	１部
審 査 票	２部
功 績 調 書	３部（叙位又は叙勲のみの場合は２部）
履 歴 書	３部（同上）
刑罰等調書	３部（同上、うち１部はコピー可）
除 籍 抄 本	３部（同上、うち１部はコピー可）

※ 民間功労者については、上記のほかに、「団体の規模及び事業概況等調」及び「活動実績表」（司法書士及び土地家屋調査士を除く。用紙はＡ４（裏白）とする。）がそれぞれ３部ずつ（叙位又は叙勲のみの場合は２部ずつ）必要となる。

各書類の様式は春秋叙勲に準ずる。

ウ 書類作成上の留意事項

（ア） 上申書

- a 用紙はＡ４縦（裏白）を用い、横書き左とじとすること。
 - b 本省所管各庁の長（本省局部課長）から法務大臣宛てとすること。
- なお、死亡日及び死亡原因（病名等）を付記すること。

（イ） 功績調書

- a 用紙はＡ４縦（別紙様式２）を用い、横書き左とじとする。複数枚数になる場合、両面コピーとすること。
- b 功績は具体的に記載することとし、併せて文中に死亡年月日を必ず記載すること。

- c 功績が複数にわたっているときは、分野ごとに分類し、項目別に記載すること（ここでの功績の分野とは、上申する功労とは異なる業界等を指す）。

(ウ) 履歴書

- a 用紙はA 4 縦（別紙様式3）を用い、横書き左とじとする。複数枚数になる場合、両面コピーとすること。

- b 氏名の字画は戸籍どおり正確に記載し、ふりがなを付すこと。

なお、婚姻等により氏名が変わっているものについては、旧氏名を現氏名の下に括弧書きで記載し、その変更年月日の記載がある除籍抄本が添付されていることを確認すること。ただし、除籍抄本から旧氏名を確認できない場合は、従前戸籍（改製原戸籍）が必要となる。

※戸籍抄本の婚姻時の「従前戸籍」や「名の変更」の箇所から旧氏名を確認できない場合は、改製原戸籍が必要となる。父母の姓が異なる場合や従前戸籍に両親以外の名前がある場合も、養子縁組した後に離縁などで旧氏名がある可能性が残るので、必ず改製原戸籍を取り寄せること（写しの提出可）。

- c 本籍（変更されていることが多いので、必ず戸籍（除籍）抄本で確認すること。）、現住所、最終学歴（中退を含む。）、生年月日及び死亡年月日（死亡原因（病名））は、必ず記載すること。

- d 職歴について

- (a) 官歴者については、人事記録に記載されているとおりに省略せずに記載すること。特に[]が省略されていると位階等の決定ができなくなるので、注意すること。

なお、軍歴がある者については、軍歴（階級等）を必ず記載し、支所勤務のある者は、本所支所の順に記載すること（支所名のみは不可）。

- (b) 民間功労者については、従事した始期及び終期の年月日を正確に記載し、また、[]がある者については[]を略さずに記載するとともに、その役職別に始期及び終期の年月日を併記すること。

- (c) 当省関係以外の公的な職歴（[]）がある者については、その始期及び終期の年月日（役職のある者は当該役職歴）を正確に記入すること。

- (d) 賞罰について

本人がかつて受けたことのある位階勲章、褒章、大臣表彰等の受章歴を記載すること。特に、前叙の有無は、その後の位階、勲章の決定に影響を与えるので、遺族に問い合わせる等して正確を期し、履歴書に必ずその有無を記載すること。

なお、[]

(エ) 刑罰等調書

用紙は、原則としてA 4（別紙様式4）によることとされているところ、同内容の記載であれば、市区町村長の発行する適宜の様式でも差し支えないが、「道路交通法違反及び自動車の保管場所の確保等に関する法律違反による罰金

なお、市区町村長から発行された刑罰等調書がB 5の場合は、証明印が確認できるようにしてA 4用紙（白紙）に貼付すること。

また、氏名が除籍抄本の氏名と一致しているか確認すること。「松」や「斎」などにはよくフォントの違いがあり、その場合には内閣府から①同一人物かどうか、②除籍と刑罰のどちらの字が正しいかの2点を聞かれるので、その旨を記載した電話聴取書を作成し、添付すること。

上申期限までに間に合わないときは追送でも差し支えないが、相当程度遅れる（死亡日から20日目頃まで。）と思われる場合は、生前の戸籍抄本を送付すること。

なお、市区町村長から発行された除籍抄本がB5判の場合は、証明印が確認できるようにしてA4用紙（白紙）に貼付すること。

(ア)

なお、新聞・ネット報道がなされているときは、その写しを添付すること。

後掲の「第4 栄典を授与することが不適当な者」を参照。

法務省以外の機関が所掌する他の公的役職等が擬叙基準に達しているとみられる者について上申を行う場合には、事前に当該機関と上申庁及び擬叙勲章・位階について現地間栄典協議をし、栄典関係協議書（別紙様式１）を添付して上申すること（XXXXXXXXXX）。

- ・経歴を確認する。
- ・叙位・叙勲の擬叙が立つか確認する（擬叙が立つ場合はその位階・勲等も確認する。）。
- ・法務省からの上申で差し支えないか、また、その理由を確認する。

(エ) 位記，勲章等の伝達について

位記，勲記及び勲章等の遺族への伝達については，

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

なお，遺族の居住地の関係で上申庁と伝達庁が異なる場合は上申庁において伝達庁と協議の上，上申書にその旨を付記すること。

15 勲章の伝達

(1) 春秋叙勲

大綬章，重光章 宮中において，大綬章は天皇陛下から親授，重光章は内閣総理大臣から伝達される。

中綬章以下 法務省において，法務大臣から伝達される。

(「勲章，記章，褒章等の授与及び伝達式例」平成15年5月20日閣議決定)

(2) 高齢者叙勲

前掲14(2) 高齢者叙勲の上申手続について オ その他(エ)「勲章等の伝達について」を参照。

(3) 死亡叙勲

前掲14(3) 叙位・死亡叙勲上申手続について エ その他(エ)「位記，勲章等の伝達について」を参照。

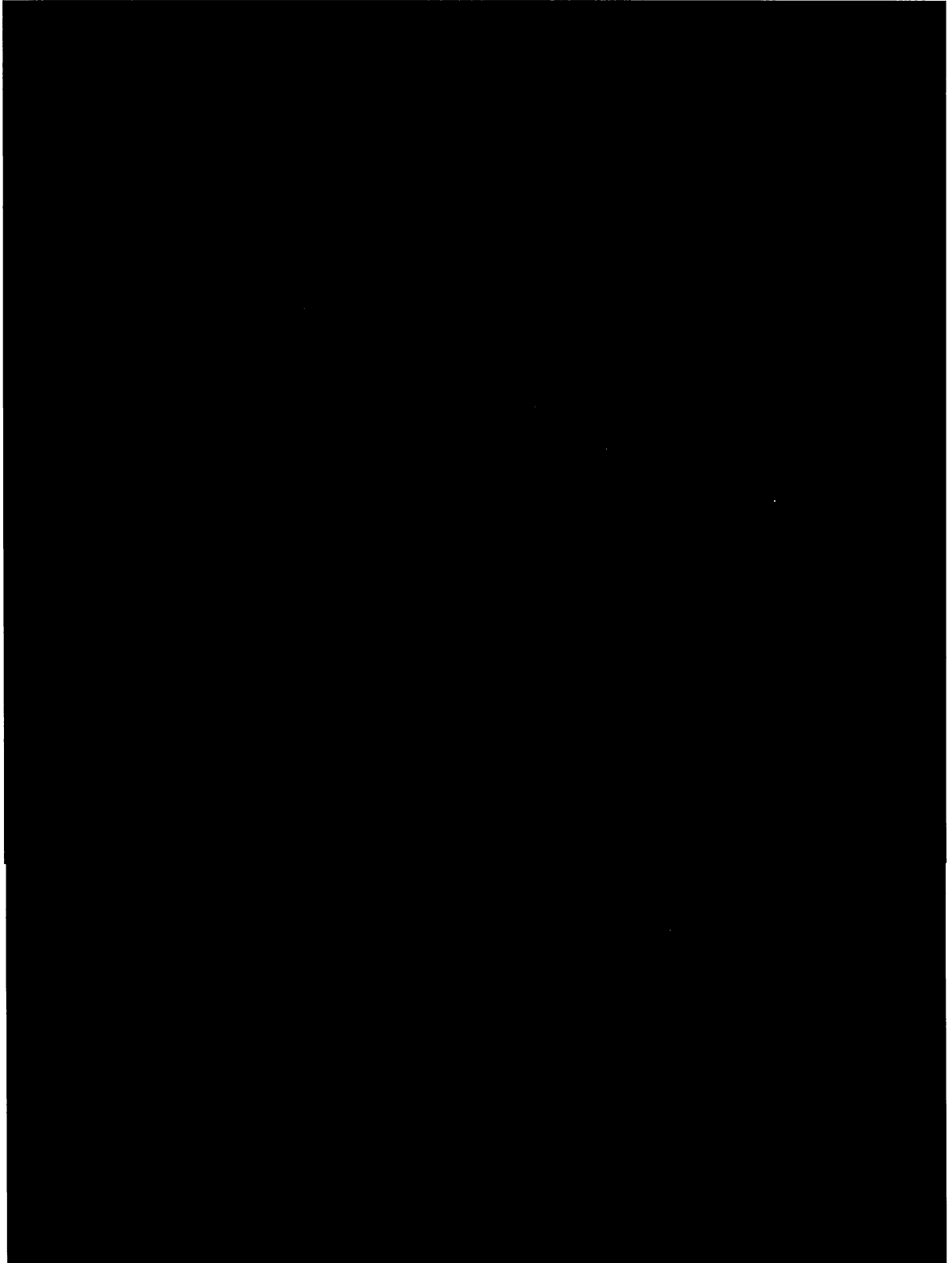
(4) 勲章・褒章，勲記・褒章の記を紛失した場合

勲記・褒章の記は，理由のいかんを問わず再交付されない。勲記又は褒章の記に代わる証明書（有勲証状又は有章証状）が申請により交付されるのみである。

ただし，勲章・褒章は実費を支払い再交付を受けることができる。この場合，「勲章（褒章）調製通知書交付願」に紛失理由書を添付して賞勲局に申請する。

（後掲の「第6 勲章・勲記等を紛失した場合の取扱い」参照）

別表 1 擬叙目安表



別表 2

叙勲基準と等級格付けの変遷について（目安）



1 保護司

[illegible]

2 教誨師

[illegible]

[REDACTED]

© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

© 2006 The Authors

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

187

1000

100

© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

© 2006 The Authors

[illegible]

[REDACTED]

[REDACTED]

別表 4

他省庁の叙勲等の対象となる公職等一覧表

職名	協議目安
----	------

職名	協議目安

[REDACTED]

※ 令和２年４月１日現在。ただし、上記公職等でも、別途協議を依頼する場合があるので、その際に対応すること。

様式 1

榮典關係協議書

年次	生存者叙勲 〇〇年　春・秋	省　庁		通し	
	死亡者　叙位・叙勲	部局名		番号	
氏　　　　　名				職　名	
協　議　の 日　時 ・ 方　法		令和〇〇年〇〇月〇日 午後　〇時〇〇分			口頭 電話
協　議　者　の　所　属 官　職　・　氏　名					
協　議　の　相　手　方　の 所　属　官　職　・　氏　名					
協議先の功労等	功　　　　労	職　　　名			役職歴・件数等
		従事年数			
	叙位の受章資格 褒章	叙　　　位	有 ・ 位 階 （ ）		<input type="checkbox"/> 無
		叙　　　勳	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 勳 等 （ ■■■ ）		無
		褒　　　章	有 ・ 種 類 （ ）		<input type="checkbox"/> 無
	上 申 予 定 の 有　　　　　無	予 定 有 り	予 定 無 し の 理 由		
		叙　　位 叙　　勳 褒　　章 令和　年　春・秋	(例) ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■		
	協　議　の　結　果		〇〇から上申する。		
参　考　事　項					

様式 2 (官歴者用)

功 績 調 書

元〇〇〇〇〇〇官

〇 〇 〇 〇

上記の者は、

9 年月日等の数字はアラビア数字とする。ただし、位階・勲章及び固有名詞は漢数字とする。

功 績 調 書

氏 名 ○○○○
生年月日 昭和○○年○○月○○日

1 職業 司法書士 (又は土地家屋調査士)

(注) 年月日等の数字はアラビア数字とする。ただし、位階・勲章及び固有名詞は漢数字とする。

様式 2-3 (民間人(司法書士・土地家屋調査士を除く)用)

功績調書

氏 名 ○○○○

生年月日 昭和〇〇年〇〇月〇〇日

[REDACTED]
 [REDACTED]
 [REDACTED]
 [REDACTED]

[REDACTED]
 [REDACTED]
 [REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

(注) 年月日等の数字はアラビア数字とする。ただし、位階・勲章及び固有名詞は漢数字とする。

履 歴 書

本 籍 ○○県○○市○○町○○番地○○（必ず都道府県から記載）
 〒○○○-○○○

現住所 ○○県○○市○○町○○番地○○（必ず都道府県から記載）

ふりがな 氏名 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
 〇 〇 〇 〇
 ふりがな (旧氏名) 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
 〇 〇 〇 〇
 生年月日 昭和〇〇年〇〇月〇〇日

昭和〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業

年	月	日	事 項	発令庁	
昭和	〇	〇	〇	陞叙高等官七等	内 閣
〃	〇	〇	〇	現役兵として歩兵第〇連隊に召集	陸軍省
〃	〇	〇	〇	帰休除隊	〃
〃	〇	〇	〇	雇を命ず	〇〇〇庁
〃	〇	〇	〇	〇〇〇に任官させる	〃
〃	〇	〇	〇	〇級〇号俸を給する	〃
			・		
			・		
			・		
〃	〇	〇	〇	〇〇〇庁〇〇〇に配置換する	法務大臣
〃	〇	〇	〇	〇級〇号俸を給する	〃
〃	〇	〇	〇	〇級〇号俸を給する	〃
				(人事院規則・・・・による特別昇給)	
平成	〃	〃	〃	退職を承認する	〃
				退職手当として金〇〇〇〇〇円を支給する	
				(国家公務員退職手当法・・・・)	
令和	〇	〇	〇	死亡(胃がん)※死亡叙勲・叙位の場合	

自 平成〇〇年〇〇月〇〇日
至 平成〇〇年〇〇月〇〇日

- 43 -

(賞罰)

[REDACTED]

※賞罰がない場合は「なし」と記載すること。

(前叙)

昭和〇〇年〇〇月〇〇日 従七位

昭和〇〇年〇〇月〇〇日 勲八等白色桐葉章受章

昭和〇〇年〇〇月〇〇日 勲七等瑞宝章受章

※前叙がない場合は「なし」と記載すること。

(注) 1 本籍、氏名、旧氏名及び生年月日はいずれも戸籍・除籍抄本と合致すること。

2 現住所は、現在の居住地を確認の上記載すること。

3 最終学歴は、大学・専門学校のときは、学部学科まで記載すること。

卒業又は中退のみを記載し、入学の記載は不要。

4 [REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

5 職歴欄は、

- ・発令年月日、発令事項、発令庁のほか、公的役職があるときは、その全部を記載すること。

・ [REDACTED]

[REDACTED]

- ・死亡原因（病名）を記載すること。

6 賞罰は、法務省以外の褒章等も記載すること。

7 年月日等の数字はアラビア数字とする。ただし、位階・勲章及び固有名詞は漢数字とする。

様式 3-2 (民間人用)

履歷書

本 籍 ○○県○○市○○町○○番地○○（必ず都道府県から記載）

7000-0000

現住所 ○○県○○市○○町○○番地○○（必ず都道府県から記載）

ふ	り	が	な	00	00	00	00
氏			名	○	○	○	○

ふりがな	00	00	00	00
(旧氏名)	○	○	○	○

生年月日 昭和〇〇年〇〇月〇〇日

(学歴) 昭和〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業

(職歴) ※職業を記載する

自 昭和〇〇年〇〇月〇〇日

至 平成〇〇年〇〇月〇〇日

(委員歴) ※司法書士・土地家屋調査士・保護司・教誨師・人権擁護委員を記載する

自 昭和〇〇年〇〇月〇〇日

至 平成〇〇年〇〇月〇〇日

自 昭和〇〇年〇〇月〇〇日

至 平成〇〇年〇〇月〇〇日

自 昭和〇〇年〇〇月〇〇日

至 平成〇〇年〇〇月〇〇日

(その他法律等に基づく委員歴)

自 昭和〇〇年〇〇月〇〇日

○ ○ ○ ○

至 平成〇〇年〇〇月〇〇日

(民間団体歴)

自 昭和〇〇年〇〇月〇〇日

○ ○ ○ ○

至 平成〇〇年〇〇月〇〇日

令和〇〇年〇〇月〇〇日 死亡（胃がん）※死亡叙位・叙勲の場合は、ここに記載

(賞 罰)

昭和〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇県知事表彰受章 (〇〇功労)

昭和〇〇年〇〇月〇〇日 藍綬褒章受章 (〇〇功績)

昭和〇〇年〇〇月〇〇日 瑞宝双光章 (〇〇功労)

(注) 1 公務員歴がある場合は、人事記録写しを添付又は人事記録の発令事項を記載すること。

2 年月日等の数字はアラビア数字とする。ただし、位階・勲章及び固有名詞は漢数字とする。

様式 4

刑 罰 等 調 書

氏 名 ○ ○ ○ ○

生年月日 昭和○○年○月○日生

1 刑罰の有無（道路交通法違反及び自動車の保管場所の確保等に関する法律違反による罰金刑を含む。）

2 破産宣告又は破産手続開始決定の有無

上記のとおり相違ありません。

年 月 日

市区町村長 ○ ○ ○ ○ 印

[Redacted signature area]

3 氏名が戸籍抄本・除籍抄本の氏名と一致しているか確認すること。

[Redacted signature area]

様式 5 (官歴者用)

叙 勲 審 査 票

(1/1)

年次		省庁等		コード		ほし			
本 籍					コード				
現住所	〒				コード				
ふりがな		性別	旧氏名等	ふりがな ペンネーム・芸名	勲 章	褒 章			
氏 名									
生年月日				出生地					
主 要 経 歴 (官職)				コード		最 終 学 歴	表 彰 歴		
功 勞 名									
区分	官 職 名 等		在 職 期 間	在職年月数	計	率	換算年月数	備考	
			自 至					○前叙がない場合は、『前叙なし』と記載 ○春秋叙勲により叙勲の前叙がある場合は、上記勲章欄に記載し、本欄に「前叙あり」とは記載しない。また、褒章は前叙には当たらない。	
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
			自 至						
					合 計				
決 定					会社の規模など		団体の規模など		
賞 勲					現在		現在		
係					名 称		名 称		
申 立	基準職	換算年数	擬叙	備考	資本金	万円	活動範囲	人	
					従業員	人	役員数	人	
					販売高	(四捨五入) 万円	役員	長 副 専 常 理	
					役員	会社 副 専 常	職員	年予算 (四捨五入) 万円	

(A)

票 查 審 勲 叙

(B)

- 49 -